



目次

1. 開催のご案内

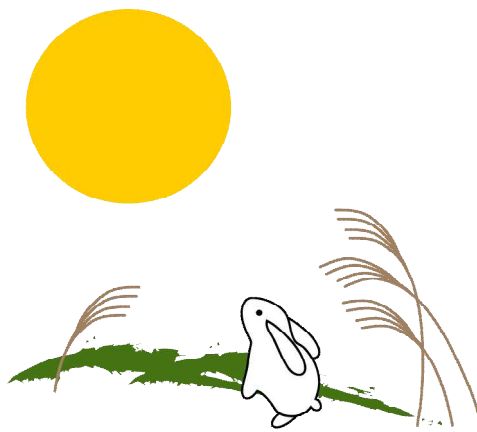
- (1) 第43回日本実験動物技術者協会総会・・・・・・・・・・ 2
- (2) 平成21年度実験動物実技講習会・・・・・・・・・・ 2

2. 報告事項

- (1) 平成21年度 第1回役員会・・・・・・・・・・ 3
- (2) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技 (第2回)』・・・・ 3
受講者からの感想文・・・・・・・・・・ 4

3. その他

- (1) 年会費について・・・・・・・・・・ 7
- (2) HPについて・・・・・・・・・・ 7



1. 開催のご案内

(1) 「第43回日本実験動物技術者協会総会」

「第43回日本実験動物技術者協会総会」が、10月9日(金)・10日(土)の2日間の会期をもって、新潟市において開催されます。

<http://www.adthree.com/jaeat2009/>

総会実行委員一同、参加者皆様に満足していただける大会になるよう頑張っておられますので、皆様のご協力のもと、秋の新潟で大騒ぎ出来ることを期待しましょう！

(2) 「平成21年度実験動物実技講習会」

日時：10月31日(土) 9:30～17:00

(受付：9:00～9:30)

会場：名古屋市立大学(川澄キャンパス)

名古屋市営地下鉄桜通線 桜山下車すぐ

講義 研究棟1階 会議室1

実習 動物センター4階 手術室

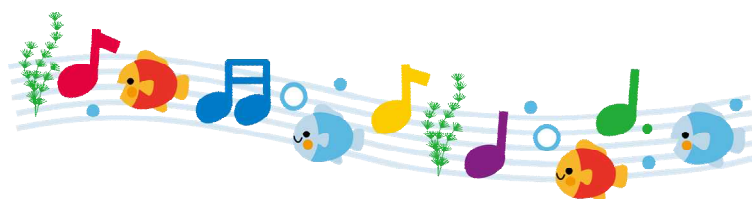
講師：日本エス・エル・シー株式会社 藤田 芳顕先生

定員：10名(先着順)

会費：会員 5,000円 非会員 6,500円

小動物を用いた実技を中心とした講習会です。基本的な手技を取得したい方、2級試験受験前の再確認をしたい方など奮ってご参加ください。申し込みは同封、または添付の申し込み用紙に必要事項を記入し支部事務局まで郵送またはFAXにてお申し込みください。E-mail (mailto:tokai@jaeat-tokai.org) でも受け付けます。

申込締切は10月21日(水)です。なお、締め切り日前でも定員に達した場合は申込みを締め切らせていただきます。不明な点は支部事務局までお問い合わせください。



2. 報告事項

(1) 平成 21 年度 第 1 回役員会

日時：平成 21 年 6 月 27 日（土） 13:00～17:00
場所：中部大学技術医療専門学校 8C 会議室（8 階）
議題：「実験動物と動物実験 基本的動物実験手技」講習会について
実験動物実技講習会（2 級試験対策）について
技術交流会について

(2) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技（第 2 回）』

下記の日程で実技講習会が実施され、10 名の方に参加いただきました。

日程： 平成 21 年 7 月 25 日（土）～ 7 月 26 日（日） 2 日間
25 日（土） 13:00 ～ 17:00
26 日（日） 9:00 ～ 17:00 （終日）

会 場： 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
藤田保健衛生大学

講 師： 藤田保健衛生大学
疾患モデル動物学 名誉教授 高橋 久英 先生
藤田保健衛生大学 生命倫理学 准教授 佐藤 芳 先生
藤田保健衛生大学 疾患モデル教育研究センター
准教授 長尾 枝澄香 先生
実技指導員：日本エス・エル・シー株式会社 藤田 芳顕 先生

講習内容：

- | | |
|------------------|-----------|
| 1) 動物を対象とする実験の倫理 | 佐藤 芳 先生 |
| 2) 実験動物と動物実験の必要性 | 高橋 久英 先生 |
| 3) 動物実験の基本的手技 | 長尾 枝澄香 先生 |

実技講習

- | |
|-----------------------------|
| 4) マウス・ラットの取り扱い |
| 5) マウス・ラットの保定と個体識別 |
| 6) マウス・ラット麻酔、投与、採血、採尿等の実験手技 |
| 7) マウス・ラットの解剖、臓器摘出方法、安楽死法 |

【参加者からの感想文】

参加された方から、講習会の感想をいただきました。

『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技（第二回）』に参加して

池田模範堂（株）
田上 千秋

この度、東海支部主催の実験動物技術者実技講習に参加する機会をいただきました。私は、動物実験に携わるようになってまだ 3 ヶ月という技術者として未熟なため、少しでも技術や知識が習得できればと思い参加いたしました。大きな収穫と充実感を持って帰ることができました。

1 日目は、実験動物や動物実験に携わる上で重要な心構えというべき講義を傾聴いたしました。動物実験を行う方々が一度は悩む実験動物の権利と動物実験必要性についてお話していただきました。佐藤芳先生や高橋久英先生の講義から、動物の倫理や動物実験を行う技術者の心構えについて改めて再確認させていただきました。この倫理や心構えを忘れず日々精進して参りたいと思います。

2 日目の基本的動物実験操作（保定、投与や解剖等）の実技実習では、スタッフの方々や他の受講生の方々の手技を実際に教えていただきました。東海支部の藤田先生を始め、担当していただいた長原先生には一つ一つ丁寧に指導いただき大変感謝しております。実習では、初めて行う手技を学んだり、日々の実験の中で自己流になってしまっていた手技を改めて見直したりすることができました。また、情報交換の中で動物愛護の問題から現在主流となりつつある新しい採血法等の多くの知識を得るよい機会となりました。技術の向上のためには、このような場で技術者同士の情報交換を通して新しい知識を学んでいかなければならないことを実感いたしました。

この 1 日半で学んだ知識及び技術を今後の実験に生かし、きちんとした試験結果を得ることができるよう手技に磨きをかけていきたいと思います。

最後になりましたが、講師の皆様、色々なご配慮をいただきました東海支部の小木曾先生を始めスタッフの皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

『実験動物と動物実験基本的動物実験手技講習』に参加して

一丸ファルコス株式会社
濱田 朋志

講習会の第一印象、それは「なんて優しい講習会なのだろう」と感じました。超ベテランの講師の方々に目の前で実演していただける、このような講習会は珍しいと思います。この関連の部署に配属し、技術習得と向上を願う方、実験動物技術者の二級試験に挑戦する方や、受験資格のある学生さんなど、受講したいと思う人は多いのではないのでしょうか。

内容においては正に「基礎」、ここを学ばなければ動物試験で良質のデータを得ることは出来ないでしょう。動物試験を始めたばかりの方にはとても良い経験になることは間違いなく、2～3年の経験者なら、日頃の仕事をやっていく中で疑問が数個出てきている時期でしょうから、その答えを見つけることが出来るのではないのでしょうか。私自身においては、講師の方々が何気に行っている、おそらく無意識に行っている手技に新しいことを多く見つけることが出来ました。「こんな方法で出来るなんて」「なるほど、こんな方法もあるのか・・・」と、講師の方々の手元をジッと観察していました。基礎と謳っていながら、教科書に記載されていない手技がそこにありました。主題の講習内容とは少しかけ離れてはいますが、そこに注目し学びを得るものまた講習会の大きな意義であると考えています。

この講習会で経験したところに加え、反復的に動物試験を重ねてゆくことで良質なデータ、精度の高い試験を行うことが出来ると思います。礎になるこの講習会の意義は、非常に大きなものだと感じました。

基本的動物実験手技(第2回)講習会に参加して

(株)ティー・エヌ・テクノス
岩本 資宏

私が小学4年生の頃、藤田保健衛生大学病院に1週間程入院していたことがある。当時は病室に6名の患者がおり、私が唯一の子供であった。そのため周りの話題について行けず、ひとりで病院内を車椅子で探検していたことや、手術直前に怖くて大泣きしてしまい先生方を困らせた思い出がある。そんなことを思い出しながら、約20年ぶりに藤田保健衛生大学を訪れた。目的は東海支部主催の基本的動物実験手技講習会に参加し、動物実験について学ぶことである。私は動物実験業務の経験が約2年であるが、主にイヌ、サルといった大動物を扱った実験が多い。本講習はマウス、ラットと小動物を扱うということなので、非常に楽しみにしていた。

講習会は2日間で、初日は講義中心、2日目は実技講習という日程で行われた。

同大学医学部倫理学の佐藤先生からは「動物を対象とする実験の倫理」について講義があった。佐藤先生は文学部御出身で哲学を御専攻ということで、倫理学を哲学・宗教学的に解説されていた。普段は動物倫理について学ぶ機会が少なく、動物虐待の背景や、動物実験及び動物実験反対の歴史に関して、勉強不足である私にとっては非常に印象的な講義内容であった。佐藤先生は、人間の生命維持のために肉食することと同様に、人間の生命科学の進歩のために動物実験をすることは許されるだろうと述べられた。ただし、3Rを徹底し、動物の苦痛や命を「いただいて」、実験者は知識や技能を手に入れ、人類の生命の改善に寄与することが重要であると締めくくられた。我々も職務を通じて今以上に創意工夫をし、技術向上を常に意識しなければならないと感じた。

続いて同大学の高橋名誉教授による「実験動物と動物実験の必要性」について講義があった。高橋先生は同大学疾患モデル教育研究センター設立の裏話、

実験者の実験に対する姿勢を熱弁しておられた。そして、昨今の動物実験減少または廃止の動きから、我々動物実験を行う技術者も減少していくという不安を持っておられた。講義の最後に高橋先生からこんなお言葉をいただいた。『実験で使用した動物は保冷库に「捨て」に行くのではなく、「安置」しに行く。焼却処分ではなく、火葬するのだ。』本講習会の中で一番感銘を受けた言葉である。動物に対して敬意を表する事の大事さを改めて痛感した。

また、同大学の長尾先生により、マウス、ラット等小動物の個体識別法、投与、採血法などが収録された DVD を参考にして御説明いただいた。普段扱うことのないスナネズミやウサギの扱い方も紹介されており、わかりやすい内容だった。DVD の中でマウスの毛色について少しだけ紹介されていたが、毛色遺伝子について興味が沸いてきた。次回講習会があれば、毛色遺伝子に関する話題もぜひ聴講したいと思った。

実技講習は日本エス・エル・シーの藤田氏を中心に、マウス・ラットを用いて行われた。藤田氏からは動物の保定が一番重要と教えられた。実際、経口投与時には保定が甘いと動物が暴れて投与できなくなるだけではなく、保定によりストレスを与えるとホルモン分泌に影響してくることで、動物実験での保定の重要さを再確認した。また、ランセットと呼ばれる器具を用いたマウスの採血法は簡便かつ、スピーディーに行うことができ、有効な方法を習得することができた。

初日の講習会後には懇親会が行われ、普段他企業の方とお話する機会がほとんどない私にとっては交流を深めるチャンスであった。先生方はじめ東海支部や参加者の方々と仕事や世間話をし、有意義な時間を共有することができたことに感謝する。

講習会后、名古屋周辺の突然の大雨により名古屋鉄道が不通になってしまうというハプニングがあった。幸い JR は運行していたので、途中の駅で JR に乗り換え名古屋駅に向かったが、通常 20 分で移動できるところを 2 時間もかかってしまった。結局、名古屋駅着が午後 8 時になり、一杯も飲む暇さえなく大阪行きの新幹線に乗り込んだ。

最後になりましたが、講習会でお世話になった方々に感謝するとともに、次回何らかの講習会があればぜひ参加してみたいと思います。そして、いつかはインストラクターとして講習会に参加できるよう、日々知識を吸収し、手技向上に努めて行きたいと思います。



実技実習の様子

3 . その他

(1) 年会費について

本協会は会員の皆様の会費により運営されています。本年度の会費が未納の方は至急お振込みをお願いいたします。

年会費：6,000 円

振込先 名 称 : 日本実験動物技術者協会
口 座 : 00130 -9 -102291
取扱機関 : 落合郵便局

(2) H P について

東海支部では、支部の活動やさまざまな情報をより早くお知らせするため、支部HPを活用しております。随時更新していきますので、ぜひ皆様もご覧ください。

また、ご意見、ご希望がありましたら東海支部事務局（担当：羽根田）までお知らせください。

HPのURLは、 HP : <http://www.jaeat-tokai.org> です。



Japanese Association for Experimental Animal Technologists TOUKAI branch

2009 年 9 月 No . 35

< 発行者 > 支部長 小木曾 昇

< 発行所 > 日本実験動物技術者協会東海支部

< 編 集 > 事務局広報 羽根田 千江美

< 事務局 > 事務局長 前田 典彦

〒484 -8506 愛知県犬山市大字犬山字官林 41 番地

国立大学法人 京都大学霊長類研究所

人類進化モデル研究センター内

TEL 0568 -63 -0607 FAX 0568 -62 -9559

e-mail : mailtokai@jaeat-tokai.org

HP : <http://www.jaeat-tokai.org>